

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇8月31日～

先週もじわじわとドル／円は上昇し、160円まで戻してきました。

28日のジャクソンホールでのウォーシュ・FRB 議長の講演内容も特に大きなサプライズはありませんでしたが、思ったよりもタカ派(インフレ抑制のため利上げや金融引き締めの方針をとる)発言となったため講演後はドル高円安の動きとなりました。

インフレ懸念から米国が利上げに動く確率は高まったと見る人が多く、米国も日本も金融政策は利上げ寄りとなっています。

日米ともに長期金利が上昇してきているため利上げの姿勢を見せないインフレがさらに進行し、金利上昇が止められなくなるという懸念もあるのかもしれませんが。

ただし、ドル／円は160円を超えてくると、今度は介入のリスクが高まってくるためどこまで上昇するかはわかりません。

まだ上がるだろうと高値を追いかけて買ってしまうと、介入で急落するというリスクもあります。トランプ政権は11月初めの中間選挙まではなんとしてもマーケットを安定させて、株価も高い状態を維持したいと思っているはずです。

しかし、イランは中間選挙までホルムズ海峡閉鎖を続けるかもしれません。

米国はイランへの軍事攻撃から経済戦争へと方向転換してきているように見えます。

そして、米国はベネズエラの原油 650 億バレルに対して過半数の支配権を取得するという協定をベネズエラと締結したということですが、ベネズエラの中からの反発も出ているということで、この協定が原油価格にどのような影響を与えるのか気になります。

トランプ大統領は米国内のガソリン価格の引き下げなどにつながると主張しています。

また、今週は31日から1日にG7・G20財務相・中央銀行総裁会議があります。

米国は9月に日銀に利上げをするように圧力をかけてくるかもしれません。

為替介入の金額は、過去1か月で見ても過去1年で見ても過去最高となっています。

それに関わらず、その効果は過去の介入に比べて弱いように感じます。

必死に介入しているのに円安を止めることが困難な状況です。

もし、日本が利上げをしなければ円安はさらに進んでいく可能性が高く、介入の意味がなくなってしまう。

ということで、日銀の9月利上げの確率は最近になって高まってきています。

G7・G20でベッセント米財務長官や日本の当局者がどんな発言をするかにも注目したいです。

さらに、週末には雇用統計もあるため値動きには注意したいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル／円>

先週は160円を回復してマーケットは終わっています。

160.2円を超えると160.8円あたりがターゲットになります。

ここも超えてくると161円台半ばあたりまで値を伸ばす可能性があります。

下値は159.3円あたりのサポートを割り込むと158.8円あたりが意識されます。

158.6円を割り込むと158円のサポートが重要になってきます。

158－161円程度のレンジを意識しながらトレードしたいです。

<気になるクロス円>

クロス円は強弱まちまちです。

豪ドルは7月終わりの急落前の高値まで戻してきました。

週足、月足も上昇しているため高値更新の動きが続く可能性があります。

ユーロは186円あたりで上値が重く、停滞した動きになっています。

上下どちらに動きがでるか慎重に見極めたいです。

南アフリカランドは10円をつけた後は反落しているため下げ止まるまで注意がいります。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では7月鉱工業生産などがあります。

米国では7月製造業PMI(改定値)、8月ISM製造業景況指数、7月雇用動態調査(JOLTS)求人数、8月ADP雇用統計、7月製造業新規受注、米地区連銀経済報告(バージュブック)、7月貿易収支、前週分新規失業保険申請件数、8月サービス部門・総合PMI(改定値)、8月ISM非製造業景況指数、8月雇用者数などの発表があります。

欧州ではドイツとユーロ圏で8月消費者物価指数、8月製造業・サービス業PMI(改定値)、ドイツで7月製造業新規受注、ユーロ圏で7月卸売物価指数、7月小売売上高などがあります。

ほかには、ニュージーランドとカナダで政策金利、オーストラリアで4－6月期GDP、カナダで失業率の発表などがあります。